

2022年10月23日（日）聖霊降臨後第20主日

銀座教会 主日礼拝

礼拝招詞「主の御名を賛美せよ。主は命じられ、すべてのものは創造された。

主はそれらを世々限りなく立て 越ええない掟を与えられた。」詩編 148：5-6

主の祈り

交読詩編 詩編 96 編 11～13 節

天よ、喜び祝え、

地よ、喜び躍れ

海とそこに満ちるものよ、とどろけ

野とそこにあるすべてのものよ、喜び勇め

森の木々よ、共に喜び歌え

主を迎えて。

主は来られる、地を裁くために来られる。

主は世界を正しく裁き

真実をもって諸国の民を裁かれる。

使徒信条

讃美歌 124番 みくにをも宝座（みくら）をも

聖書 サムエル記下7章8～17節

8 わたしの僕ダビデに告げよ。万軍の主はこう言われる。わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取って、わたしの民イスラエルの指導者にした。9 あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく断ち、地上の大いなる者に並ぶ名声を与えよう。10 わたしの民イスラエルには一つの所を定め、彼らをそこに植え付ける。民はそこに住み着いて、もはや、おののくことはなく、昔のように不正を行う者に圧迫されることもない。11 わたしの民イスラエルの上に士師を立てたところからの敵をわたしがすべて退けて、あなたに安らぎを与える。主はあなたに告げる。主があなたのために家を興す。12 あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。13 この者がわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえに堅く据える。14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が過ちを犯すときは、人間の杖、人の子らの鞭をもって彼を懲らしめよう。15 わたしは慈しみを彼から取り去りはしない。あなたの前から退けたサウルから慈しみを取り去ったが、そのようなことはしない。16 あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」17 ナタンはこれらの言葉をすべてそのまま、この幻のとおりダビデに告げた。

牧会祈祷 天の父なる神さま。今朝もあなたの御前に立たせていただき、礼拝をささげる幸いを感謝いたします。主にある兄弟姉妹と共に礼拝をささげます。

キリストの御名によって祈ります。

アーメン

本日与えられた聖書の御言葉は、とうとう王となったダビデが王宮に住むようになった時のことが記されています。ダビデ王は自分自身がレバノン杉の王宮に生活しているのに、神の箱は天幕、テントにおかれたままであることにはたと気付きます。ダビデ王は、先代の王サウルから命を狙われ逃亡生活をしている間、神の守りがあったことを思い起こし、神への感謝として神がお住まいになる家を建てようと考えました。

「2 王は預言者ナタンに言った。「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ。」(サムエル記下7:2)

ダビデは王座に就き、平安を与えられた時のこと、素晴らしい王宮で生活しながら、神の住まいが気になりました。ダビデ王は、自分はこんなに素晴らしいレバノン杉の王宮で生活しているのだから、神の住まいもレバノン杉で建てようと考えたのです。

ダビデ王にとって最も大切なことは、主なる神が共におられたということでした。これからも神が共にいてダビデを守ってくれるように期待して、感謝と今後の守りの保証として神の住まいを建てたいと考えたのです。

しかし、神は預言者ナタンを通して、ダビデの提案は退けられました。神はダビデ王に対して、神殿建設を許可しなかったのです。なぜでしょうか。ダビデ王の息子ソロモンには神殿を建てさせたのに、なぜダビデには神殿を建てることをお許しにならなかったのでしょうか。

神がダビデ王に神殿建設を許可しなかった理由は、いくつか考えられます。レバノン杉の家など贅沢すぎると、神は贅沢を戒めたということも考えられます。列王記によると、ダビデは王になるまで戦争に明け暮れていたため神殿建設を許されなかったと、戦争問題による原因も列王記に記されています。(列王記上5章17節) その他では、歴代志には、多くの血を流したため神殿を建てることを許されなかったと別の理由も記されています。(歴代志上28章3節)

しかし、サムエル記には、更に本質的な理由が記されています。それは、主なる神は天幕を住处となさる神であるということです。天幕を住まいとするということは、単に質素であるということではなく、ダビデ王をはじめ、人間が指定する家には神は住まわれないということです。主なる神は特定の土地や場所に住まないのです。聖書の神は、土地の神ではないのです。そうではなく、イスラエルと共にどこへでも行ったださる神であり、ダビデと共にいてくださった神であるということです。

本日の聖句の冒頭の御言葉はそのことを記しているのです。

8 わたしの僕ダビデに告げよ。万軍の主はこう言われる。わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取って、わたしの民イスラエルの指導者にした。9 あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく断ち、地上の大いなる者に並ぶ名声を与えよう。

今やダビデ王朝が建てられて、主なる神はダビデに対して、神の自由な恵みを理解させようとしているのです。同時にダビデが王としての不安から、神を自分だけの神

としようとしている心を見抜いていたのではないかと思います。いずれにしても、ダビデ王が王の力によって、主なる神を王の指示によって特定の場所に置こうとしたことを問題にしているです。ダビデに神殿建築を許さないことを通して、神の御心を示し、ダビデ王を立ち止まらせ、大切なことを理解させようとしていると思うのです。この神の御心を示した後でなければ、神殿建設の許可は与えられないのです。このダビデの失敗を理解した上で神はソロモンに対して神殿建築を許したのです。

主なる神は、ダビデと共におられる神です。しかし、主なる神はたとえ王であっても、いかなる人間であってもその人に縛られることはないのです。神が神であることをふまえないければ、一步も先に進むことは出来ないのです。しかし、ダビデに与えられた信仰は、その後主イエス・キリストの誕生へとみちびく光りとなりました。

ダビデ王はヘブロンに7年半、エルサレムで33年、全イスラエルを統治しました。ダビデから3百数十年後に王朝は滅びました。しかし、神の言葉は無駄にならず、王朝を滅ぼした罪から人々を救う、救い主がダビデの家から現れるのです。神の約束は王朝の問題を越えて、世界の民を救う主イエス・キリストがお生まれになることによって成就するのです。16節「あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」

ダビデ王は神への感謝を神の住まいとして建てることを通して表したいと、考えたと思います。しかし、ダビデの失敗は、神の住まいを一つの所に定めようとしたことでした。聖書の神は、エジプトの奴隷であったイスラエルの民と共にいた神です。モーセと共に荒れ野の旅したとき、共に同行した神です。彼らの労苦を共にされた神です。それは、主イエスが私たちと共にいてくださることと同じです。主イエスは人の子は枕するところもないと言われました。主イエスは私たちを救うために、すなわち罪人を救うためにエジプトであっても荒れ野であっても、エルサレムであっても、罪人と共にいることをよしとしてくださるのです。

ダビデの失敗は、神の家を自分の力で建てることができると思った所がありました。神の家は人間が建てるべきものではないのです。このことは、主イエスを十字架刑に処する裁判での言葉によって理解することができると思います。マルコ14:58「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」

ユダヤ人たちは、主イエスを処刑にするためにこの言葉を問題にして神殿を軽んじていると主張しました。この主イエスのこの言葉はユダヤ人からすれば神殿を冒瀆しているとしか理解できないのです。しかし、主イエスはエルサレム神殿という建物を三日で建てるということではなく、キリストの体なる教会を立てることを伝えているのです。真の神殿は十字架について三日目によみがえる復活のキリストのことだったのです。主イエス・キリストが復活させられることによって、私たちは神を神として拝むことができるようになったのです。人間は罪の身でありながら神を拝むことができるようになったのです。これこそ真の神殿なのです。

神殿を神殿とするのは、信仰によるほかありません。神を神として礼拝をささげる

ために、建物があることも必要ですが建物がなくても礼拝はささげられます。ダビデ王は信仰者としての神殿について深く考えることが出来ませんでした。

私たちは神の恵みへの感謝を表すとき何をしたらよいのでしょうか。大切な事は、神の恵みは決して尽きてしまわないということを知ることです。無限な神の恵みに感謝するために私たちにできることは、神殿を建てることではなく、神の御前に立ち、感謝をもって神を礼拝し、神に仕えることです。そして、自分の力を誇らないことです。なぜなら、神の恵みはいつでも、人間の力より強く大きいのですから、私たちが私たちの力で神に対してお返して、貸し借りなしにすることのできるようなものではないのです。

使徒パウロはアテネの町を歩きながら、神々がまつられていることを目の当たりにしました。そして、アテネ市民に語りました。使徒 17 章 23-25 節

「23 道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。24 世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。

25 また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。」

使徒パウロは、コリントの信徒への手紙 2 6 章 16 節において、こう記しています。「16 神の神殿と偶像にどんな一致がありますか。わたしたちは生ける神の神殿なのです。神がこう言われているとおりです。『わたしは彼らの間に住み、巡り歩く。そして、彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。』

私たちは、神の恵みと憐れみによって、生ける神の神殿とされているのです。この御言葉を覚えたいと思います。そして、神は私たちの間に住んでおられること、神が私たちの神となって私たちの間に住んでくださること、神の神殿としてくださることを覚えたいと思います。ここに最大の恵みが与えられているのです。

祈りましょう。 天の父なる神さま。ダビデ王が神の住まいを造ろうとされたことを通して、あなたがダビデと共にいることの大きな意味を知らせ、ダビデに信仰を新たに与えてくださいました。御前に悔い改め、あなたの神殿とされている恵みをまっすぐ受け止めることが出来ますように。キリストの御名によって祈ります。アーメン

讃美歌 210 番 きよきところをつくれよと

献 金

頌 栄 544 番

祝 祷

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン